

お家で楽しくできる！算数の基本を定着させるコツ

1年生の1学期に学習する「繰り上がりのないたしざん・繰り下がりのないひきざん」は、これからの算数のすべての土台となります。ドリルをこなすだけでなく、日常生活や遊びの中で「数」に触れることが、確実な定着への近道です。ぜひ、ご家庭で以下のポイントを意識して声をかけてみてください。

「具体物」を使ってイメージをもたせる

1年生の子どもたちにとって、計算カードの数字だけで覚えるのは難しいです。目の前にある「モノ」を使って、数が増えたり減ったりする感覚を体感させることが大切です。

クッキーが3個あります。2個もらうと全部で何個かな？（式 $3 + 2$ ）

◆クッキーのイラストでかぞえてみよう

- ① はじめにあったクッキー（3個） 
- ② あとからもらったクッキー（2個） 
- ③  +  = 

クッキーが5個あります。3個食べたら残りは何個かな？（式 $5 - 3$ ）

◆クッキーのイラストでかぞえてみよう

- ① はじめにあったクッキー（5個） 
- ② 食べたクッキーの数（3個） 
- ③  -  = 

計算の「おはなし」を作ってみる

式を見て、それがどんな場面を表しているのかを言葉にできると、文章題にも強くなります。

「 $3 + 4$ のおはなしを作ってみて？」

お子さんが「公園にすずめが3わいました。あとから4わ飛んできました。合わせて7わになりました。」のように、お話を作れたらたくさん褒めてあげてください。

引き算の2つの意味を意識する

◆残りを求める「のこりはいくつ？」

「5個のうち2個食べたら？」

◆違いを求める「ちがいはいくつ？」

「りんごが5個、みかんが3個。どちらが何個多い？」

★特に「ちがいはいくつ」を引く計算はつまずきやすいため、並べて比べる体験が有効です。

以下のようにイラストの左端をそろえて上下に並べます。

【りんご】 

【みかん】  (2つたりない！)

※点線 (|) を描いて、1つずつペア (お友だち) を作ってあげることが重要です。ペアが作れずにあまった部分 (右側) が「ちがい」になります。以下のステップで声をかけながら進めると、1年生の子にも納得してもらえやすいです。

①どちらが多いかを確認する

「りんごは何個ある？」⇒「5個！」

「みかんは何個ある？」⇒「3個！」

「どちらが多いかな？」⇒「りんご！」

②線で結んで「ペア (お友だち)」を作る

「りんごとみかん、1つずつ線で結んでお友だちにしてあげよう」

「あ、みかんが足りなくて、お友だちができないりんごがあるね」

「お友だちができなかった (あまった) りんごは何個かな？」⇒「2個！」

③「違い=引き算」の式に結びつける

「この『ちがい』を計算するときも、引き算を使うんだよ」

「多い方の 5 から、同じ数の 3 を引くと、ちがいの 2 がわかるよ」

イラストだけでなく、実際に手で動かせるブロックを上下に並べ、1つずつ手で隠しながら「どちらがいくつ多いか」を比べさせると、より効果的です。

ゲーム感覚で繰り返し楽しむ

勉強として無理にやらせるのではなく、親子でゲームとして取り組むと、自発的にスピードと正確性が身につきます。例えば、持ち帰った計算カードを使い、「お家の人より早く答えられたら勝ち！」とゲーム化します。「昨日より○秒早くなったね！」と、過去の本人と比べる声かけが効果的です。

「早くしなさい！」と急がさない

1学期のうちは、早く解くことよりも、「指を使ってもいいから、正確に答えを出せること」の方が大切です。慣れてくれば自然とスピードは上がります。

「10の補数 (いくつといくつ)」を大切に

「10は7と3」「10は6と4」といった数の分解 (いくつといくつ) がスムーズにできると、2学期以降の「繰り上がり・繰り下がり」で絶対につまずきません。

お家の方の「笑顔」が一番のエネルギー

正解したときはもちろん、間違えても「惜しい！もう一回やってみよう」と、解こうとした姿勢をたくさん褒めてあげてください。「算数って楽しい！」と思えることが、お子さんのこれからの学習意欲を大きく育てます。